

光芒よ永久に

詩・曲：平野宏志

遠い街から 夢や希望を乗せて 愛する人のもとへ長い旅は
荒ぶる夜の暗い海の上で 戦うときが来る 望まなくとも
遥か彼方に灯る光芒を頼りに やがて嵐が去って太陽が昇るまで

君の放つ光が 与えてくれる勇気は まるで
父に手を引かれて 歩きつづけた時に似ている

誰もいない岬で 風に吹かれて 一人大空へとそびえたち
遥か彼方へ絶えず光を送る 孤独な船の無事を祈りながら
日々の暮らしの途中で 岬の君を見ると 疲れ果てた身体に 力が蘇る

君が絶やすことなく 遠い彼方へ放つ光は
いつも見ている やさしい目をした母の如く

君が放つ勇気や 安らぎの光 絶やすことなく明日へ続きますように
どんな嵐の夜も そびえたつ君の 美しさが未来へ伝わるように
僕の僅かな汗や ひ弱なこの腕が 灯る光のために 何かできるなら

君が運ぶ勇気と安らぎが永久に続くために
僕は惜しむことなく 力と思いを注ぐだろう



水ノ子島灯台(大分県 豊後水道 初点:明治37年3月20日)

その他の主な灯台 <http://tokokai.org/archive/index02.html>

♪ 歌 へ ♪ ⇒

http://www.5d.biglobe.ne.jp/~atsushi/images/koubouyo_towani.mp3

